

## タバコ産業の盛衰のあと 徳島県三好市

高橋哲也

### ●四国のへそ

四国のほぼ中央、四国三郎吉野川が屈曲する場所にある池田町を中心に、平成の大合併で誕生したのが徳島県三好市である。

室町末期に幕府の実権を掌握し、畿内を支配した三好長慶を生んだ町でもある。

JR徳島線、土讃線の乗り換え地で、香川、高知各県とも接し、交通の要衝として発展した。今年(2010年)の人口は、約31000人、平家の落人で有名な祖谷、日本百名山の剣山(1955m)を含む山間過疎地域である。

かつては、県立池田高校が豪快な攻撃野球で甲子園をわかせた。

### ●古い地図を見てみよう

1900年(明39)測図、1928年(昭3)修正、1932年(昭7)発行の1/50000地形図(池田)を見てみよう。

1914年(大3)に開通した徳島本線に続き、1929年(昭4)には土讃本線(当時は予讃本線支線)が多度津からつながった。土讃本線が高知まで開通するのは1935年(昭11)のことで、阿波池田駅が終着駅として描かれている。

県境の猪ノ鼻トンネル(3845m、完成時日本第二位)を抜けた鉄路は、勾配を緩和するため3キロ近く東進したあと向きを変え、池田へ下って行く。

駅の西側の一画に、升形の記号(専売局)と煙突記号が見える。専売局のタバコ工場である。

吉野川に架かる橋は、鉄道橋と1927年(昭2)完成の三好橋があるが、現在の国道32号線は渡船で結ばれている。三好橋のたもとには銅の採鉱地の記号がある。40Kmほど離れた別子銅山と鉱脈が続いているのだろうか。

吉野川の北岸に目を向けると、箸蔵村西山の標高400mから600mの山の緩斜面に人家が点在し神社や学校もある。

### ●町を支えたタバコ産業

江戸時代、徳島藩の特産物としては、藍、塩が知られるが、葉タバコの生産も盛んであった。明治に入り、水力・蒸気の利用、さらに石油発動機の導入で工業製品としてのタバコ製造が発展した。

1902年(明35)の統計によると工員数10名以上の工場は徳島県全域で134ヶ所、うち池田町が54ヶ所で、徳島市をしのぐ工業都市であった。

1909年(明42)に内務省衛生局がまとめた「上下水道に関する調査書」が残っている。その報告に横浜水道、秦野曾谷水道などと並んで、徳島県池田町水道が記載されている。それによると、「煙草製造業者六十有余名は水道布設事業費の内、一万一千円を寄付せんと申出」とあり、総工費23,912円の5割近くを負担したことが判る。四国初の近代水道である。

販路も全国的に拡大され、専売制前の活発な経済活動をうかがい知ることができる。

1904年(明37)大蔵省専売局池田製造所が設けられた。これにより民間工場は姿を消すが、専売局によるタバコ草の全量買上げ、官営工場の雇用とあわせ、タバコの町が生まれた。

### ●大蔵省専売局～専売公社

1875年(明9)「煙草従価印紙税法」により、印紙の貼付という方法で煙草税が課せられた。その後、1898年(明31)からの葉タバコの専売を経て、1904年(明37)の「煙草専売法」により、原料の収納から製造販売を全て、大蔵省専売局が行うこととなった。

製品販売だけでなく製造も国の管理となったわけである。

刻み職人を雇用するかたちで始まった専売局池田製造所は、戦後、専売公社池田工場となった。刻みタバコの「ききょう」に加え、1970年(昭45)には新工場が完成、「ハイライト」の製造が始まり最盛期を迎えた。町内には3軒の映画館があり、人口も旧池田町だけで、2万人を数えた。

### ●葉タバコの記憶残そう

2009年(平21)3月の徳島新聞の記事によると「三好市池田町の西山小学校の児童が今年で生産が終わ

る葉タバコの在来種・阿波葉の種を入れたタイムカプセルを学校の敷地内に埋めた」とある。

西山地区（旧箸蔵村西山）では昭和40年代まで50数戸あった家のほとんどで葉タバコを生産していたという。かつて町を支えた葉タバコの記憶を未来に伝えようとするものだ。

2009年を最後に日本たばこ産業による阿波葉の買い取りは終了した。

### ●まちを歩いてみよう

最新の地形図（2007年発行）を手に、まちを歩いてみよう。駅に近い一等地に大きな空白がある。2005年（平17）に閉鎖となったJT徳島工場である。現在はショッピングセンターに姿を変えている。

人通りの少ないアーケードを抜けると国道192号線だが、吉野川河岸にバイパスが抜け、交通量も少なくなっている。タバコの町の痕跡は『阿波池田たばこ資料館』だけだろう。“うだつ”の上がった資料館の建物は、築100年を越すかつてのたばこ商家の家屋である。専売制により廃業した明治期の建物が残っているのだ。

諏訪神社への坂を上ると、吉野川が見えてくる。池田ダムのすぐ下流だが、水量は豊かだ。中央構造線に沿って東へ眺望が開けている。

街を見おろしながら西に歩く。池田幼稚園に大西城の石垣が残されている。つづいて池田高校が見えてくる。1992年（平4）を最後に甲子園から当遠ざかっている。

### ●これからの三好市は

400年続く阿波葉栽培の伝統を後世に残し、観光振興などに生かそうとする、「たばこ特区」（刻みタバコの製造・販売）の申請は却下された。国は「地ビール」ならぬ「地タバコ」は認めないのだろうか。

市では、「阿波葉刻みたばこを考える市民会議」を発足させ再申請を行うとのことだ。

合併で大歩危・小歩危や祖谷といった観光地が市域となり、近年は、吉野川のラフティングも浸透してきたが、いずれも大きな集客は難しそうだ。

今の地形図の記載されている注記は、「諏訪神社」

「蓮華寺」「池田ダム」の3つだが、前の2つは100年前の地形図にも記載されている。市街の大きさも同じである。人は代わっても、まちは変わっていないと言えるかもしれない。

静かなまちである。社会インフラはそろっているので、住みよい街だろう。

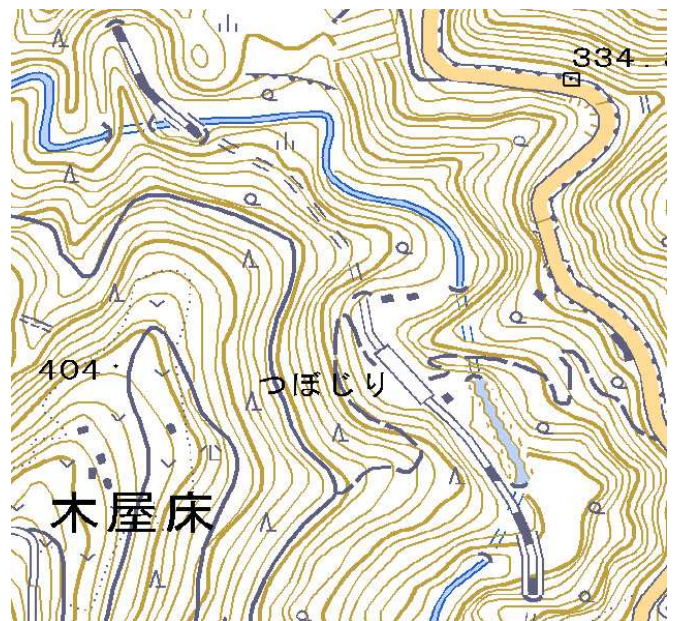
### <カタカナ地名の謎>

市街の字名の多くがカタカナで表記されている。マチ（町）、サラダ（皿田）、シンヤマ（新山）など。

元の漢字は「三好郡志」により判明しましたが、カタカナに変わった経緯は判りませんでした。

### <おまけ>

土讃線坪尻駅は、川廻しで捻出した土地に駅舎が作られている。この駅へ行くには、道幅1.5m未満（徒歩道）の急坂を100m降りることになります。



（参考文献）

徳島新聞（徳島新聞社）

三好郡志 1924年（大13）

池田町史 1983年（昭58）

上下水道二関スル調査書（内務省衛生局）

1909年（明42）

池田町統計書 明治43年（徳島県池田町）

主要工場就業規則集（協調会）1925年